

## 投資に役立つ

## 経済ワード

Vol.11

## クロスレート

円/豪ドル、円/インドルピーなどのように、基軸通貨※である「米ドル」を含まない通貨間の為替レートをクロスレートと言います。

※世界の取引で基軸となる通貨、現在は米ドル

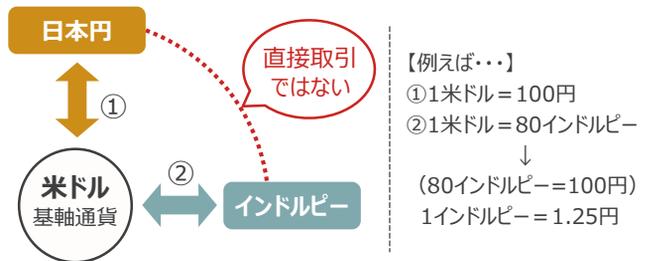


## 米ドルを介して為替レートが算出される

一般的に基軸通貨である「米ドル」は、各通貨と直接取引が行なわれます。一方、「米ドル以外の通貨」間は直接取引が行なわれるのではなく、米ドルを介して取引が行なわれます。

そのため、日本円と米ドル以外の通貨間の為替レートは、①米ドルと円、②米ドルと当該通貨のレートにより算出されます。

## ■クロスレートのイメージ（円とインドルピーの場合）



上記は「クロスレート」の全てを説明するものではありません。

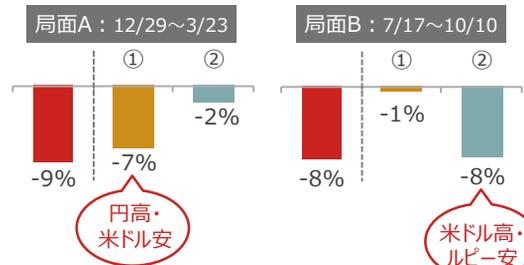
## それぞれの対米ドルレートからクロスレートの変動要因を探る

右のグラフで日本円/インドルピーの推移を見ると、円高・ルピー安となった局面AとBは、それぞれ変動要因が異なることが分かります。主に、局面Aは①円高・米ドル安の影響、局面Bは②米ドル高・ルピー安の影響によるものでした。

局面Aは米中通商問題など米国の政治リスクや金融政策動向の不透明感などから、安全資産とされる円が買われ、円高・米ドル安が加速しました。局面Bは原油価格上昇に伴うインドの貿易赤字拡大の影響など、インド自身の要因も影響し、米ドル高・ルピー安が加速しました。

このように、日本円/インドルピーの為替レートの変動要因を探るには、それぞれの通貨と米ドルとの動向を確認することが重要です。

## ■インドルピーの推移



期間：2017年12月29日～2019年1月31日、日次  
 各為替レートで騰落率を算出しています。円/ルピーの騰落率と①と②の騰落率の合計では誤差が生じます。  
 (出所) ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。